

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-4 治安対策の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 少年女性対策課長 丸本 到 電話番号 0852-26-0110（代）

事務事業の名称	子ども安全対策事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	「子ども安全センター」を核として関係機関・防犯ボランティアが連携し、子供たち自身に犯罪の被害に遭わないための危険回避知識及び能力を身につけさせるなど防犯意識の高揚を図る。
事業概要	子供たちに、犯罪の被害に遭わないための危険回避のための知識及び暴力を身につけさせるため、県内の全小・中学校において犯罪被害防止教室を開催する。	

2. 成果参考指標

(1) 指標名	小・中学校における犯罪被害防止教室の実施率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
式・定義	小・中学校での開催数/県内の小・中学校数	実績値	100.00	100.00	100.00	100.00		%
		達成率		100.00	100.00	100.00		%
指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値						
式・定義		実績値						
		達成率						%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	0	0
うち一般財源(千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 平成26年中の、県内の小・中学校における犯罪被害防止教室の実施率は、100%で目標値を達した。
- 平成27年6月末現在、県内の全小・中学校309校中、240校において犯罪被害防止教室を開催している。（実施率77.7%）
- 平成27年6月末現在、声かけ、つきまとい事案を92件（前年同月比+20件）認知しており、依然として注意すべき状況にある。そのうち、小学生の被害が40件、中学生の被害が14件で全体の58.7%を占める。被害者全体の52%が、下校・退勤中に被害にあっている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 毎年、児童・生徒を対象とした犯罪被害防止教室を、県内の全小・中学校で100%開催することで、小・中学生が危険回避知識や能力を身につけるための一助となっていること。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 現時点において、本事務事業の成果参考指標に関する目標達成の弊害となる状況は認められない。
- 本事業の目的は「子供たち自身に犯罪の被害に遭わないための危険回避知識と能力を身につけさせること」であるが、その知識と能力の習得について、客観的に効果測定する術がない。

②困っている状況が発生している「原因」

- 本事務事業に関しては、毎年「犯罪被害防止教室の実施率100%」を成果参考指標に設定し、目標を達成している。
- 平成27年6月末現在、声かけ、つきまとい事案の認知は前年同月比+20件で増加傾向にあり、その発生状況から、小・中学生が最も被害にあっているのは、保護者や学校の届かない「下校中」であり、危険回避のためには、児童・生徒ひとり一人にその知識・能力が問われる。

③原因を解消するための「課題」

- 本事務事業に関しては、小・中学校の協力がある限り「犯罪被害防止教室の実施率100%」の達成は可能である。
- 危険回避のための知識や能力の習熟度は、子供ひとり一人によって異なる。家庭では保護者、学校では教職員といった子供を見守る大人が存在するように、家庭と学校を結ぶ通学路等の生活空間にも、保護者や教職員以外の地域住民を、子供を見守るボランティアとして確保・連携する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 小中学校の児童・生徒は毎年卒業・入学によって入れ替わり、学校の教職員も転勤によって環境が変わることから、危険回避のための知識や、自分の身を守るための能力を習得させるためにも、犯罪被害防止教室等の訓練を毎年繰り返して行う必要がある。
- 犯罪の起きにくい環境を作るためにも、関係機関や団体等との協働パトロールや見守り活動を推進するとともに、広報啓発活動と合わせて、地域住民の防犯意識の高揚を図る必要がある。
- 犯罪被害防止教室の内容そのものを、児童生徒の年齢・性別に見合ったものにする必要がある。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）